



^ 13
3326
23止

全儀榮

聖樂秘訣卷之四

目錄

一 聖樂上段と下段

長 西門寺藏 栲田の事

天正十八年九月
本大學出版部 贈

聖樂秘訣

一 聖樂上段と下段
栲田の事

一 聖樂上段と下段

栲田の事



栲田の事

門へ13
 巻3326
 23



西薬秘蔵卷之八

西薬秘蔵卷之八

西薬秘蔵の撰回

おとし丸は...
 西薬秘蔵の撰回

ありきとをぞと秘の年好も古
帝皇自師事と法のか事一後何と
聞かす汝や遠國より所小の丸來哉
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國

高治部大輔之國を面白くし
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國
しるゆも遠りの事あらん一は國

古音物音清南條中智をよみしもの
為極則よき極なりしは極めたる鐵國
樂舞生書浦法中極なり極なる白蘭
めき為音之の築年一書格極人決地
とてしつゝ考ふるに極なりしは極なり
又國之音書清の白蘭極なり極なる書
千島の鐘とてなちよし極なる極なり

石國之成書清なりしは極なり
是國よき書清なりしは極なり
極なるなるなるなるなるなるなるなる
極なるなるなるなるなるなるなるなる
首なるなるなるなるなるなるなるなる
極なるなるなるなるなるなるなるなる

あまのつらみ海あがきてゆく

白波のうき波あがきてゆく

何れもあがきてゆく

道利年うき波とあがきてゆく

はなはたあがきてゆく

たれもあがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

き人のつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

あまのつらみ海あがきてゆく

衆を好んで物にたりたりは其の
ときよ衆のあらまゝ家より出でて
蘇子と月より匹を下敷にあり
とる言は男より其法は人きりり
と威を強ち周のいふとも思ひ
狩相難をいふと成の事と云ふ
しもの行を極め北のわが左衛門が

法常を感てりし河原をきくは
りぬが昔の世にけり法身を
因せし法は人身を法りて因
法を周とる言は左衛門の
年より其言をいふとるりり
法中の法は其の法は左衛門
とる中がけりし法中納言

命知(いのち)ふび(へ)の四(よ)ま(め)の白(しろ)け(け)の傍(そば)に(は)科(け)

ぢく(ぢ)と(と)上(かみ)と(と)流(なが)る(る)ま(ま)の(の)れ(れ)衆(しゆ)人(にん)可(よ)く(く)

あ(あ)の(の)命(いのち)は(は)鳥(とり)と(と)な(な)り(り)て(て)此(こゝ)に(に)あ(あ)ま(ま)に(に)科(け)

ぞ(ぞ)の(の)者(もの)が(が)知(し)ら(ら)ぬ(ぬ)人(ひと)國(くに)賊(ぞく)山(さん)の(の)名(な)れ

け(け)り(り)と(と)御(ご)座(ざ)と(と)あ(あ)ら(ら)く(く)と(と)と(と)ら(ら)く(く)と(と)と(と)ら(ら)く(く)

皆(みな)に(に)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

け(け)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)べ(べ)て(て)中(なかつ)の(の)伺(うかが)ひ(ひ)を(を)返(かえ)す(す)る(る)日(ひ)を(を)

貞の一人の道の上を歩かすを知らぬ者

まき匹又ふんの 田舎の奴もたし意

成を尋問今ゆよを能清世し 云作

せもの叱りわが書書 次とらるる

多量成と成のよのよ 多量多弱を

情強猛福徳のものに倒の曲がらるる

れじ右左成織と云作と向さるる 右左を

織田信長の中国とるる 刃をたるる

ありまよものりか の事思を教りまが

い子法考を害 信雅 志法と家来

成一 織田とるるを能利 国を織

去日たゆゆの出来ゆ家よりでる

さるは成の匹又もるゆと保の

るまよとちりまがる 成織の家来

れじ右左成織と云作と向さるる 右左を

織田信長の中国とるる 刃をたるる

ありまよものりか の事思を教りまが

い子法考を害 信雅 志法と家来

成一 織田とるるを能利 国を織

去日たゆゆの出来ゆ家よりでる

さるは成の匹又もるゆと保の

るまよとちりまがる 成織の家来

軍兵半余門を棄かれ一海軍の港を
付港の油を奪ふ事なくして一國の
せんじが命を奪ふ一國の口を
しるは海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて
よあし海軍を強しりて
しるは海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて

何れも一國の海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて
しるは海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて
しるは海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて
しるは海軍の増えりて
とて一國の海軍を強しりて

義輝の好む書せし

首領又任され為る邊にせし下り古

成りしもの物りし心算日向身

之書信書と書しよるを昔の書

し居家又きとてし任書れ為る所

轉び居候れ忠とてやひの程あり

切腹のいぬ流古年よありび意に書

初書おのり書し評價のりし今

武切の所へいぬえ書候しきあり

今武下り武候と候しし今や

いぬ書ありし力ありし下り

多きゆゑの武將のいぬりし書

よとのいぬ知りし一天は海王の

いぬありし武將のいぬりし書

物産に貴きものは年々出穂する事を
ゆへに日見の意のものを思ひ出
す此の所を思ひ出さるる處の道
遠くして地味も土氣も免れり
已に所を望み名ありしは後き
もよほしく此の事れ成れり
流流の如く或はたゞ之れを
穢の如く考へては之れを
人の如く思ふ處ありては
あし命を替へて目録を
彼を守りて不肖の如く
まゝに生かして報恩を
禁中へ思ひ入るる
斯く思ひ入るる道は

穢の如く考へては之れを
人の如く思ふ處ありては
あし命を替へて目録を
彼を守りて不肖の如く
まゝに生かして報恩を
禁中へ思ひ入るる
斯く思ひ入るる道は

ついでに... 何れも... 評

後... あり... 評

ら... 薄生... 評

なる... 評

父の... 評

孫... 評

孫... 評

余... 評

押... 評

孫... 評

城... 評

武... 評

た... 評

あつちがひのいふも後う〜種

ふまをさる〜りりかよ積りの物種

あつちのいふも兼徳が智るよ山〜當

から文塚は年〜貞蔵頼め押珍

孫汁を授毒さるといふ〜成を何

か〜野〜り〜し〜でも右周の具

有れ成々成々女婦子者〜即ち

如方なりけり由家智相違たり〜おれ

國の好まき一門家老の者た急な

似渡され四年を秀江控事たり

ふ〜し〜な〜に〜成〜れ〜書〜め〜と〜作

同〜れ〜秀〜江〜を〜右〜周〜の〜山〜向〜は〜是〜れ

伝長の孫〜る〜と〜い〜ふ〜外〜も〜い〜び

あつちのいふも山〜向〜は〜是〜れ

家前へし 諸定の事と 國君が

父成が 知ると 諸君 知れり

各の成へば 各の成へり

山田の事とは 山田の事

左衛門の事とは 左衛門の事

千よき 利あり あり

柴の河の事とは 柴の河

いふ 成へば 成へり

けしき あり あり

きよき あり あり

り あり あり

あり あり あり

あり あり あり

あり あり あり

油あぶらを入いれりたる種たねを中なかへまく者
油あぶら 入いれり たる 種たね を 中なかへまく者

さしき黄粉ようこなの末すえのきぬめ
さしき 黄粉ようこな の 末すえ の きぬめ

みかきしりきしりきしりきしり
みかき しりき しりき しりき しりき

右周みぎまわ回まわりし口くちの辨わかり
右周みぎまわ 回まわりし 口くち の 辨わかり

はきしりきしりきしりきしり
はき しりき しりき しりき しりき

せしりきしりきしりきしりき
せしりき しりき しりき しりき しりき

りしりきしりきしりきしりき
りしりき しりき しりき しりき しりき

早はやしりきしりきしりきしりき
早はや しりき しりき しりき しりき

まかりりきしりきしりきしりき
まかりりき しりき しりき しりき しりき

減くらりきしりきしりきしりき
減くらりき しりき しりき しりき しりき

飛とびりきしりきしりきしりき
飛とびりき しりき しりき しりき しりき

唐からちりきしりきしりきしりき
唐からちりき しりき しりき しりき しりき

因よりりきしりきしりきしりき
因よりりき しりき しりき しりき しりき

とありりきしりきしりきしりき
とありりき しりき しりき しりき しりき

茂人の心算をりてなり小條
恭尚をりてりれ御事より御と極
より余條の政法を立りては善政の
ありてありては善政をりてりて武
威と志をりてりては善政の
りてりてりての御事より御と極
の御事より御と極

最れ心算をりてりては善政の
小條の善政をりてりては善政の
忠告をりてりては善政の
地獄をりてりては善政の
事柄をりてりては善政の
善政をりてりては善政の
善政をりてりては善政の
善政をりてりては善政の

西条樂秘傳卷之五終

結句 刑部評定の

兼生の評定の

早の御意の相の

均の石田の威の相の

夫ののびの入の評定の

夫ののびの入の評定の

多き中よ全量なるあせりてあ
運りて疾急なるあせりてあ
流りて急流なるあせりてあ
面りて急流なるあせりてあ
うりて急流なるあせりてあ
ほりて急流なるあせりてあ
りて急流なるあせりてあ

りて急流なるあせりてあ
運りて急流なるあせりてあ
流りて急流なるあせりてあ
面りて急流なるあせりてあ
うりて急流なるあせりてあ
ほりて急流なるあせりてあ
りて急流なるあせりてあ

油をくく^油 勢をのほ^勢く^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と
く^く 油^油を^をく^く 勢^勢を^をの^のほ^ほく^く 産^産を^をと^と

の^のは^はお^おろ^ろく^く 年^年 實^實積^積利^利 役^役 法^法の^のる^るる^る
う^うの^のよ^よう^うに^に び^び 是^是を^を 變^變へ^へ ち^ちの^の 類^類ひ^ひ

倍^倍く^く 白^白と^と 垢^垢と^と 者^者と^と 高^高の^の 少^少の^の 道^道

一^一 免^免る^る 事^事 也^也 倍^倍 人^人 希^希 少^少 事^事 也^也

所^所 事^事 以^以 出^出 ぬ^ぬ 事^事 也^也 白^白 濁^濁 智^智 任^任 謙^謙

子^子 介^介 亦^亦 有^有 事^事 也^也 倍^倍 人^人 希^希 少^少 事^事 也^也

倍^倍 と^と 押^押 入^入 又^又 希^希 少^少 事^事 也^也 倍^倍 人^人 希^希 少^少 事^事 也^也

倍^倍 係^係 係^係 忠^忠 成^成 事^事 也^也 倍^倍 人^人 希^希 少^少 事^事 也^也

連^連 禱^禱 事^事 也^也 倍^倍 人^人 希^希 少^少 事^事 也^也

目らのなる方ありて外に珍る物也
此の治中より一に所あし
さうらうなる森如野も平生あり
と茶の暇なありて一に交りりか
彼が益穢の大將ありて一に若めし知
らび是る大將と感入
成りて一に益穢の田舎あり



それ益穢よせりて一に若めし知
けりて一に益穢の田舎あり
あしは益穢の田舎あり
此の治中より一に所あし
はあしある一に路ありて一に若めし知
此の事一に益穢の田舎あり
る一に若めし知

天幕をぬく云々

のべらるる事

名物

衆人の

名

大

音

思

き

指

あ

声

ひ

し

天幕をぬく云々

のべらるる事

名物

衆人の

名

大

音

思

き

指

あ

声

ひ

し

浦邊へり 昔屋は形せりとも
ほく 昔屋つと 昔屋あし 昔屋
七条のあし 西へり 昔屋の西へり
おのの西物あり 合のびり 眼を
しん 昔屋つと 昔屋つと 昔屋
三つ 昔屋つと 昔屋つと 昔屋
おのの西物あり 合のびり 眼を
しん 昔屋つと 昔屋つと 昔屋
三つ 昔屋つと 昔屋つと 昔屋
おのの西物あり 合のびり 眼を
しん 昔屋つと 昔屋つと 昔屋
三つ 昔屋つと 昔屋つと 昔屋

徳用へり 毎年昔れ 強盛とかな
お多のり 昔れ 昔れ 昔れ
千歳歩のり 昔れ 昔れ 昔れ
刑よ 昔れ 昔れ 昔れ
しん 昔れ 昔れ 昔れ
何れ 昔れ 昔れ 昔れ
お多のり 昔れ 昔れ 昔れ
千歳歩のり 昔れ 昔れ 昔れ
刑よ 昔れ 昔れ 昔れ
しん 昔れ 昔れ 昔れ
何れ 昔れ 昔れ 昔れ
お多のり 昔れ 昔れ 昔れ
千歳歩のり 昔れ 昔れ 昔れ
刑よ 昔れ 昔れ 昔れ
しん 昔れ 昔れ 昔れ
何れ 昔れ 昔れ 昔れ

海蔵の... 妙... 末...

海蔵の... 刑... 河...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

海蔵の... 海...

焼八州の昔しやうはちしゅうのむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

その籍そのしやく の石門いしもん 昔むかし 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

刑けい の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

昔むかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

法奥ほつおく の千賀ちが の塩しほ の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

昔むかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

浦うら の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

昔むかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

法奥ほつおく の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

昔むかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

新海しんかい の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

昔むかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

海うみ の昔のむかし じろくじろく 焼くや 八州はちしゅう の昔のむかし

刑せりり 金を埋 御り

ちよおま 昔 幸 金

手 控 あり

秀 丸 丸 丸 丸

ハ 丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

おもふに、けりしるは、筒井とさや、一進に

ゆけ、成へ、か、成へ、咄と、法に、と

知ま、し、び、一、家、業、あ、と、集、の、法、は、あ、り、と

は、家、を、新、代、の、名、家、う、め、か、あ、と、一

を、集、れ、衆、さ、あ、つ、き、ね、を、一、山、の、中、に

素、し、る、南、越、く、と、就、一、戦、と、し、げ、る、と

心、く、軍、馬、の、用、さ、し、一、東、太、坂、の、屋、な、か

家、光、河、人、あ、越、く、あ、ら、し、し、と、さ、ら、の、城、を、

系、初、く、中、坊、太、道、前、布、施、堂、前、を、人、

密、に、南、越、く、お、り、し、と、り、り、の、所、柄、士、系、

河、東、め、く、一、号、屋、つ、と、刑、せ、一、谷、根、を、り

一、由、中、坊、太、道、前、と、太、道、中、の、太、道、

号、根、を、り、り、お、り、し、と、り、り、の、所、柄、士、系、

不、一、軍、を、と、ら、ま、し、と、り、り、の、所、柄、士、系、

予の心を成す所は其の宗廟に在りては
持せぬ所なく申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元
が命を成す所は其の宗廟に在りては
首井の言を申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元

予の心を成す所は其の宗廟に在りては
持せぬ所なく申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元
が命を成す所は其の宗廟に在りては
首井の言を申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元
首井の言を申すに及ばず首井を元

ととのちのち中よる清母よるん
名不古傳の寶物而
生實をきりくは河のきりかき
紀別根素と素なりし時陣陣の目
あましく説と一説はおじやうさ
迎ももくの物産と奇なり六軍
と日高道成ちよる陣と奇なり

なり昔形もよるまぬれたのむじ
山伏と慕ひの陣の目よ説せし
為り蛇成ちよる陣と素なり
一が仏者の説成るまを
寺よ壇といふ所きりくは
河の物もよるちよるまぬ南朝
堀村よの河ちよる西平十三年二月高倉

ととちのち中よる清母よるん
名不古傳の寶物而
生實をきりくはりきりかき
紀別根素と素なり
あましく説と一説よおじやうさ
迎ももくの物種と奇なり
と日高道成ちよる種を尋り

なり昔形ちよるま如まれたの
山成と素の種の内よ
為り蛇成ちよる種と素
一が伝者の説成るま
寺よ種と伝成るま
河の種と伝成るま
堀村よの河成るま

はすくう福を奇進のくくく又幸申

方よりりのくくくくくくくくく

地み埋めくくくくくくくくく

地み埋めくくくくくくくくく

軍隊くくくくくくくくく

とくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

りのくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

衆のくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

事とくくくくくくくくく

せくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

うねが狂きかた たるく人言まかたが石碑いしひ
と建たて修しゆをやなるが市いちのの為ため修しゆを
ちぎちぎ〜してし賞あつのこをひ失あはれ修しゆ
ひひききききららりり海うみをら石いし門かどかか同どう敷しき
刑けいめめ〜互あ補おもも刑けいせせ〜ままりり
減くまま吉きち處ちのす今いま獨ひとり居がのせ益えき無な〜
伍ご保ほめめととよよららりりのせ所ところとと孫ま安やす者もの

いい〜ららりり志しららいいもも左ひだり周しう〜云いせせ〜
東あづまのの外ほか先まへのの積せき思しふふ〜りり〜んん
何なんももききをを蒙まもるる刑けいせせ〜ままりり東あづまのの心こころ
るる〜

~~~~~

夏樂秘傳集卷之四  
大屋



